



新建設立50周年事業

2020.4.23

東京現地実行委員会準備会から 実行委員会へ

日本近代建築運動100年 新建設立50年 共に生きる原点を見つけよう!



第1回～第5回 実行委員会準備会

2019年

第1回	4月9日	第2回	5月30日
第3回	6月19日	第4回	7月22日
第5回	8月23日		

2019年4月9日からスタートした準備会は毎月開催し、のべ72名の参加者で積極的な討議がおこなわれました。

「50年の歩みを深め、次の50年を展望する」これからの意識して、いっしょに歩いていく人を増やしていくことが、次の歴史をつくっていくことと思っています。50周年は、新建を創った人たちと若い会員が「時」を一緒にできるチャンスでもあります。各支部が50年という節目をきっかけに支部の活性化、そして新建全体のエネルギーになる取り組みにしましょう。

フリートークで出されたキーワード

- それぞれの時代の特徴を把握しよう
- 創立の頃の新建と今の課題
- 若い人が「先が見えない」という問題提起
- 空間と思想が大事
- 老若で話し合いたい
- 地域での取り組みを洗い出す運動
- 新建が果たしてきた役割の確認
- 人と人との関係性が大事
- 世代を問わず議論できるのが新建の良さ
- 参加型の事業を前面に
- 建築人の楽しさを仕事に取り戻そう

通信発行連絡先

新建築家技術者集団 東京支部

〒162-0811 新宿区水道町2-8 長島ビル2階

TEL 03-3260-9810 FAX 03-3260-9811

Mail shinken-tokyo@group.email.ne.jp

◆大事なのは「自分が今立っているところはどこなのか」、「新建の会員たちはどうやって食べて行ったらいいのか」ということです。「食べていく」というのは、「カネ」をもらって、かつ、「職業人」として仕事ができるということです。

◆事務所の若い人から、「仕事をしていても先が見えない」という問題提起があって、徹底的に議論しようということで丸一日議論しました。当然結論は出ないのですが、「住宅余り・空家問題」「資源は大切」「大量建設はない」「住民・市民の暮らしを支える施設をつくる人を支えなければならない」「まちの主体をつくっていく仕事に頑張ろう」というような点で合意に達しました。

◆「新建設立50年」と言いますが、東大建築学科卒業生による「分離派建築会」が設立されたのが1920年です。建築運動の流れからすれば100年。建築運動の流れの中で、我々はどのような位置にいて、どのようなやり方をするのがいいのかを考えねばなりません。

◆新建は「職能団体」ではありません。「運動団体」です。建築運動100年の中のどこに今いるのか一緒に考えましょう。

◆地域や住民と手をつなぎ、専門家としての役割をはたすことが新建にとって一番大事な事です。

◆「新建の立ち位置の問題」「社会が50年の間に大きく変わった問題」などを受けて我々が新建50周年を期に話し合うべきテーマは何であるかをもっと議論しましょう。

新建設立50周年実行委員会 参加者

実行委員長：中島明子

事務局長：山下千佳

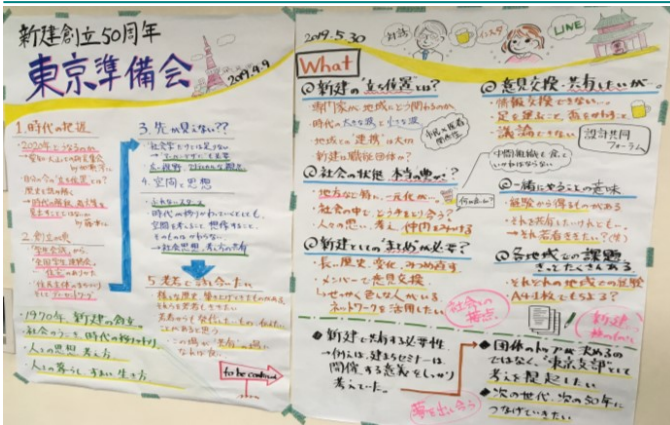
準備会事務局長：松木・澤田

東京支部：宇賀、岡田、片柳、小林、木下、杉山、高田、高本、千代崎、藤本、丸谷、丸山、三浦、柳澤、渡辺

神奈川支部：酒井・永井

千葉支部：加瀬澤

群馬支部：新井



今は「変わり目」

「想像力」の力で見つけ、建築家は、ある「仮説」を立てる勇気を持たねばなりません。そして最後には「空間」を語らねばならないのです。建築やまちづくりは、金融や不動産と連携が必要であることは事実ですが、その根っこにある「社会思想」を共有しないとだめです。時代が変わっても共通している「思想」のようなものがあるのではないのでしょうか。住民に対してはわれわれが「先に見える話」をしてあげないといけません。今は「変わり目」だと思います。

市民から信頼される「中間セクター」

世の中では、当たり前前のことが言えない、まっとうな建築、まっとうなまちについて言えない状況があります。言っても「リアリティがない」などと批判されます。そういう中で新建はまっとうなことを言い続けて来たと思います。

仕事が大組織に一元化されてしまうと、建築技術者が生きがいのある仕事をできなくなるようです。かつて、公団や公社という「中間セクター」といっしょに仕事をしたこともあります。オランダではずっと小さな「中間セクター」が市民の信頼を得て仕事をしています。自分たちで事業や設計をせずに設計事務所などをうまく組み合わせるといって「コーディネーター」的やり方です。日本でも市民から信頼される「新しい中間セクター」を地域が発明できるかどうか気になっていることのひとつです。

これからの時代は今よりもっと分かりにくい時代になるでしょう。そういう中で大きな流れに対応していこうとするなら「主要な矛盾」は何かをとらえる必要があります。

新建の先輩と出会う

私は若いころ何をしたらいいか、つかめなくて悩んでいました。誰も答えをくれません。自分で考えて見つけなければならぬのかと思っていた頃、新建の人に出会い、本で読んで、これはすばらしいと思って「象地域設計」に入社しました。

若いも若きもみんなで議論することが大切

「新建 50 周年とはどういうことなのか」議論して、余り長くてもだめだから「A4版」1枚程度にまとめて、それを集めて議論して交流する。そういうことを「50周年企画」としてぜひやるべきではないでしょうか。

夢が語れない

夢が語れない状況は生まれています。施主と打ち合わせをしても、濃い打ち合わせができないと言うか、「あなたの住宅を設計する上で必要なのでお聞きします。あなたは 10 年後にどのような生活をしていると想像していますか？」と訊ねても答が返ってきません。

50年の歴史を踏まえて次の戦略を

日本を「大きな仕組み」が支配している中で、「新建はこの流れに抵抗する戦略をつくるべきではないだろうか」「50年の歴史を踏まえて次の戦略をどうするか」が大事なのだと思います。

- ◆「家族像と住まい」という根幹を新建がつくってきたことによって建築家の職能を広げた。
- ◆「ストック（蓄積）」と「フロー（流動性）」という対立する概念で整理してみる。「技術」は「ストック」、われわれがつくろうとしている建築やまちも「ストック」です。ところが社会の風潮としては「フロー」が余りに重視されています。ついには「カネを投資するのはカネを設けるためだ」という倒錯したところまで至っています。

- 自分史を出そう
- 50周年メッセージを出そう
- 「新建 50周年宣言」を出そう
- 新建の時々を担った人の話を聞こう

第1回～第7回 実行委員



2019年	第1回 9月27日	第2回 10月17日	第3回 11月26日	第4回 12月21日
2020年	第5回 1月20日	第6回 2月13日	第7回 3月17日	第8回 4月6日

* 第8回は新型コロナウイルス感染防止のために延期

- ・記念事業特別委員会の設置
- ・「建まち」50周年記念特集
- ・50周年企画と研究集会のイメージ
規模・時期・会場
- ・記念ロゴの募集
- ・50周年メッセージについて
- ・研究集会について

ロゴマークは7名から18点の応募がありました。
全国大会初日に47名が投票 13票獲得

馬越まゆみさん(旧姓:小谷さん/元まちづくり研究所)
東京支部(岡山在住)の作品に決定!!

選ばれた理由:判りやすさ/気に入りました/赤と黒のパターンが良い/普通に見やすい/分かり易いから/単純であること/全体のバランスがよい/印象です/ロゴマークとしていろんなところで使えるから

記念ロゴ募集

- ①応募期間:10/10～11/10
- ②応募資格者:会員だけでなく一般からの応募も呼びかける。
- ③賞金(賞品)
- ④公正な審査機関を設置する。
第32回全国大会 in 千葉で最終決定する。
- ⑤複数の当選もあり得る。



今新建に求められていること

- 1、つながりを広げ、共同して実現する(今、建築人がおかれている状況)
 - ①悩みや思いを素直に出し合う場をつくり、心の通うつながりをひろげる
 - ②新建の価値を発信する、企画に誘う、活動と成果を公表する
 - ③他団体、他活動と連携する、共通の目的で広範囲に協力する
何故、交流共同が必要なのか? SNS時代であって!
- 2、生活要求に応え、職能を確立する
 - ①生活の悩みを解き、要求を満たして、自覚した生活者の支持を広める
 - ②誰もが対等に人間らしく生きられる世の中にするため、居住の貧困をなくす
- 3、地域に根付き、まちを豊かにする(SDGs・持続可能な社会という大きな視点から考え活動する)
⇨そこには戦争、兵器、核への反対
 - ①楽しく豊かに住めるまちをその地域の住民と一緒に作る
 - ②人災を招く開発や、弱者切りの再開発を止めさせ、防災と復興に取り組む
 - ③地域の特性を活かし、地産地消を追求し、住民が主役の自治体をつくる
- 4、自然と共存し、文化を継承する
 - ①自然を大切にしてきた日本の風土と民家の歴史・機能を再確認し、省エネ、省資源・快適性を追及
 - ②文化遺産や景観・まちの原風景を守る、暮らしが育ててきた技能を受け継ぎ発展させる
- 5、歪みを見抜き、確かな道を示す
 - ①富や権威の競争が心を病む社会の要因であることを明らかにする
 - ②儲け第一主義を正して=商業主義に陥ることなく暮らしの喜びが生産の目的となる流れをつくる
 - ③人間と環境を破滅する戦争を断ち、平和な世界を実現する展望を示す
- 6、まちと人々の暮らしに寄り添い、日本の文化を継承するデザインを議論し探求する
- 7、新建運動50年、日本の建築運動100年の歴史を学び再評価する



第1回～第7回 実行委員

桜楓2号館→



- 第1回 みんなで50周年の全体像を大きく描きました
- 第2回 50周年企画を実施する意味について
 - ・「外」に向けての企画が足りない。分野の違う方の声も聴く。
- 第3回 50周年事業と研究集会の時期・会場が決まりました。
- 第4回 会員アンケート・研究集会・建築運動勉強会などを討議
 - ・若い技術者への期待
 - ・研究集会「分科会のあり方」
 - ・今から50年後の理想のまち
- 第5回 「私が実行委員会にできるのは場違い」という意見も
 - ・勇気ある発言に「一部の人たちだけが分かるような話し方でなく、参加者誰もが理解できるように心がけよう」と気づく
- 第6回 記念シンプのテーマ、内容について検討しました。
 - ・記念シンプは50年を振り返るだけでなく、これからの建築とまちづくりを切り開いていこうとしている取り組みや、実践の報告を中心にする。研究集会分科会につなげる。

記念企画のテーマ案続々！ 「若者」・「女性」・「協同」・「協働」・・・
- 第7回 記念行事・レセプション・研究集会・見学会 担当グループ打合せを開始

日程：2020. 11/14 (土)・15 (日)・16 (月)

会場：日本女子大学「桜楓2号館」(文京区目白台1-16-7)

当初の案

・第1日目：記念行事・レセプション

14:00～17:30 記念行事（記念講演シンポジウム等） 机なしで300人 4階ホール。

18:00～20:30 レセプション 立食で300人 3階集会室303～306 料理は桜楓会で

・第2日目：研究集会・交流会

09:00～17:00 研究集会 30人室×4室、18人室×1室 4階及びロビー

17:15～18:00 全体会 4階ホール

18:30～20:30 交流会 これは外の店を検討する。

図書館→



・第3日目：見学会

◆新建は支部活動を中心に、地域に根ざし、建て主の立場に立ってやってきました。これこそが他の建築運動や建築団体と違うところです。

◆記念企画は、職域を意識したシンポジウム形式がいい。

◆メッセージを出すことで、たくさんの意見交換がなされるといい。

◆新建は地上戦をやっている人の集まりです。そのことが大事な事です。空中戦で儲けている建築家はいませんが、土台がきちんとしている人は少ないです。ハイタワーマンション建設、駅前再開発、区分所有などが問題です。私たち専門家は「こうあるべき」と気付いたことは「言っても無駄」だと考えるのではなく、言っておきたいし、「あの時確かに言った」ということを記録に残しておくべきです。

準備会・実行委員会を通して、みんなで討議して思いを共通にしてきました。5月から実行委員会ニュースをつくる予定でしたので、心に留めたいことをまとめてみました。詳しくは毎号出された議事録を振り返って下さい。各地域や支部でも取り組みが行われ、また準備されていたことは大事な時間と内容になり、次に進むステップになると思います。新型コロナウイルスの影響で決めたことが実行できないこともあります。今までもたくさんの困難を乗り越えてきたように、これからもみんなの知恵と勇気と協同で道を開いていきたいです。 (By やました)

